

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24243064

研究課題名(和文)生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的健康

研究課題名(英文)The QOL and Mental Health across the Life Span Survey

研究代表者

菅原 ますみ (SUGAWARA, Masumi)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：20211302

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、児童期～成人期までの子どもを持つ大規模な家族サンプル(両親と追跡対象の子ども)を対象に、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の加齢による変化を横断的に明らかにし、年1回3年間にわたる縦断的測定によって得たパネルデータの因果分析によって、QOLの低下が精神的健康の悪化の原因となることを示した。

また、学童期のQOLに関する縦断的分析から、家庭の低所得が養育の質と教育投資の低下につながり、子どもの学力やQOL、学校適応や精神的健康に影響することを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The participants of this large-scale longitudinal study were children (childhood through adulthood) and their parents, and they were followed up by yearly questionnaire for three years. First of all, we cross-sectionally studied change in Quality of Life (QOL) status by age. Next, through the analysis of longitudinal data obtained, we showed that decreased QOL may lead to poorer mental health.

Additionally, longitudinal analysis of school-aged children's QOL suggested that low-household income leads to poor parental child care quality and less educational investment which in turn affect children's academic performance, QOL, school adjustment, and mental health status.

研究分野：発達精神病理学

キーワード：クオリティ・オブ・ライフ 生涯発達 精神的健康 縦断研究

1. 研究開始当初の背景

子ども期を含め人の一生のなかで出現する多くの精神疾患や問題行動にはその発現要因として環境ストレスが深く関わっており、個体側の持つ遺伝子などの生物学的脆弱性 (biological vulnerability) やその時々での心理的状态 (psychological state) との複雑な相互作用によって発現の危険性が増減する。これらの要因のなかでも、個人が評価する自分の生活や健康状態の良質さや人生幸福感、自己受容感などの主観的ウェルビーイングは個人の環境に対する評価や心理社会的状況を示す重要な指標であり、近年の医学や心理学、保健学、公衆衛生学、社会福祉学といったアカデミズムだけではなく、開発途上国を含む全世界的な政策評価の指標としても注目されてきている (UNICEF, 2007; OECD, 2011)。本研究では、妊娠・出産期あるいは幼少期から親子の発達を追跡してきている長期縦断サンプル (1,151 世帯父母子合計 3,863 名) を対象とした質問紙調査を実施し、年 1 回×3 波にわたる縦断的測定によって、児童期から成人前期までの子どもと、成人前期から初老期までの両親のクオリティ・オブ・ライフ (QOL) の時系列的変動と精神的健康との関連について検討をおこなうこととした。

2. 研究の目的

本研究では、児童期～中年期までの広範囲な年齢分布を有する大規模サンプルを対象に、QOL の加齢による変化を横断的に推察するとともに、縦断的研究法と時系列データ解析法を用いた検討をおこなって、QOL と精神的健康との関係性および QOL に影響する内的資源 (パーソナリティ、生育歴、学歴や本人自身の各種リテラシー：生きていく上で必要な知識および技術とその活用力) と外的資源 (社会経済的状態、サポートネットワーク等) の役割と効果について明らかにし、生涯発達におけるメンタルヘルスの健全維持に必要な要因について実証的に解明することを目的とした。

3. 研究の方法

妊娠期および子どもが 0 歳～15 歳時に縦断調査への登録が終了している対象家族 (1,151 世帯：母親 1,151 名・父親 1,151 名・追跡調査の対象となっている子ども 1,561 名の計 3,863 名) を対象とした郵送による質問紙調査を実施した。主要測定概念については全サンプル共通の尺度を用いた調査票を作成し、1 年 1 回・3 年度にわたって縦断的に配布・回収した (平成 25 年度～27 年度)。

調査内容は、以下の通りである：

- (1) 精神的健康に関する精神医学的尺度 (自記入式抑うつ尺度: CES-D, 一般的健康尺度: GHQ, ASEBA: Children Behavior Checklist 6-18, Adult Behavior Checklist, 人格障害傾向, ADHD/ASD 傾向)

- (2) 主観的ウェルビーイングに関する尺度：QOL 尺度：18 歳以上には WHOQOL-26、10 歳～17 歳の子どもについては子ども用 QOL 尺度：KINDL、Diener らの幸福感尺度 (成人)、生徒用生活満足度尺度: SLSS
- (3) 基本属性 (家庭の社会経済的状況)：家族メンバーの教育歴、世帯年収、就労者の職種・職階、家族構成、同居/別居/離死別状況、要被介護者の状況等)
- (4) パーソナリティ尺度：Big 5 関連尺度として、NEO-FFI (60 項目)、また 7 因子理論 (Cloninger, 1993) 関連尺度として、Temperament and Character Inventory の成人版 (125 項目) および Junior-TCI (生徒用) を実施した。
- (5) 生活リテラシー関連尺度：シチズンシップに関する尺度 (国政及び地域に対する自己効力感尺度、ボランティア活動尺度)、生活関連情報リテラシー尺度 (食、医療、環境、住居)、健康維持行動、生活習慣等の測定をおこなった。
- (6) 認知関連尺度
批判的思考尺度、推論課題
- (7) ソーシャル・サポート関連尺度：親密な対人関係性については The Network of Relationship Inventory (配偶者・親子・友人・恋人)、対人的信頼感尺度、サポートネットワーク尺度、夫婦関係尺度、家族機能尺度等によって測定した。
- (8) ライフイベント：直近および生育歴上の主要なライフイベントについて尋ねた。
- (9) 学校/職場適応：職場満足やワークライフバランス、学校適応感等発達段階にあわせて測定を実施した。
- (10) 対象となった家族については、本研究期間以前にも長期にわたってデータを収集しており、今回の調査に対応する変数を結合し、縦断的解析に使用した。

4. 研究成果

- (1) 世界保健機構の WHOQOL-26 による胎児期から成人期までの様々な年齢の子どもを持つ夫婦ペア (合計 10,757 名) の QOL 指数の分析から、子育て初期の両親の QOL の相対的低さが示され (1.2 歳を底とする緩やかな U 字型の推移、図 1)、乳幼児を養育する家庭に対する物理的・対人的サポートの重要性が示唆された。

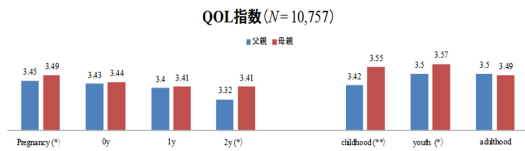


図1 子育て期の両親のQOL指数の推移 (横軸は子どもの年代を表し、pregnancyは胎児期、childhood: 10~12歳 youth: 14~22歳 adulthood: 23~30歳。アスタリスクは両親間で有意な差があることを示す。)

*: $p < .05$; **: $p < .01$

表1 妊娠期~成人期までの子どもを持つ親のQOLに関連する社会経済的要因 (重回帰分析, N=10,575)

	QOL (all)			
	Pregnancy	0y	1y	2y
survey year	β	β	β	β
gender	.07**	.08**	.08**	.05
age	.05**	.01	.01	.09**
education	-.02	-.09**	-.11**	-.05
family income	.13**	.08**	.13**	.08*
	.16**	.15**	.15**	.14**

	QOL (all)		
	Late childhood	Youth	Adulthood
child's age	β	β	β
gender	.00	.07	.18**
age	.16**	.16**	.00
education	.03	.04	.01
family income	.21**	.11*	.06
	.18**	.08	.09

*: $p < .05$; **: $p < .01$

表1に示すように、妊娠期~成人期の子どもを持つ幅広い年齢層の両親の大規模データ(10,757名)の分析より、両親のQOLには世帯年収と親自身の教育歴がそれぞれ独立に正の関連を有することが示され、子どもが育っていく家庭環境の良質さには、親の持つ経済的・教育的資源の多寡が影響している可能性が示された。家族のQOL値を子どもの発達に沿って長期的な観点から検討した研究は世界的にもほとんどなく、日本人の有子・有配偶層のQOL標準値に関する貴重な基礎的資料を得ることができた。

(2) 学童期のQOL・学校適応と家庭の経済状況との関連

家庭の低所得が親のストレスを経由して養育の質と教育投資の低下につながり、小学生期の子どもの学力やQOL、学校適応や精神的健康に影響する結果も得られ、子どもの貧困率が上昇している我が国において、経済的・教育的資源の乏しい家庭の子どもたちに対する支援が早急に必要であることが明らかになった(図2)

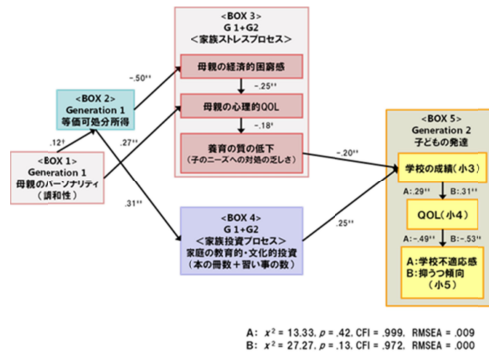


図2 家庭の社会経済的状況の人間発達への影響に関する多世代相互作用モデル (The Interactionist Model of Socioeconomic Influence on Child Development: IMSI) による小学校3年生から5年生への縦断データの分析結果 (N=324世帯) *: $p < .05$; **: $p < .01$

(3) QOLと精神的健康との因果関係の推定

長期縦断研究(菅原他, 2015)に参加している子育て家族の両親のうち、2014年(wave 1)・2015年(wave 2)・2016年(wave 3)の経年調査に参加し、今回の解析に使用した諸変数に欠損値のなかった1,242名(男性: 42.1%, 平均年齢: 49.92歳(SD=7.07))を分析の対象とした。交差時差遅れ分析の結果、QOLから翌年の抑うつ傾向への有意なパスが観測され(図3)、QOLの低下が精神的健康の悪化をもたらす可能性が支持された(CFI=.980, RMSEA=.064)

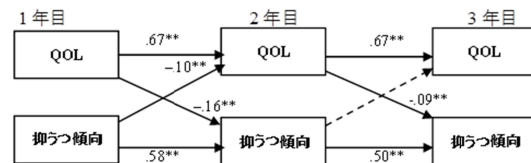


図3 成人期におけるQOLと抑うつ傾向との因果分析 (N=1,242, (年齢, 性別, 教育年数, NEO 因子得点は統制済み))

(4) QOLと個人内資源(パーソナリティ・生活関連リテラシー)との関連

成人データ(N=1,242)を用いて重回帰分析をおこなった結果(表2)、パーソナリティ各因子とともに、生活関連リテラシー変数とも有意な関連が見られ、生活や社会に対する個人の主体的な関わり方もQOLの向上にとって重要である可能性が示唆された。

表2 QOLに関連する内的資源要因

従属変数: QOL (N=1,242)

	β
社会経済的変数	
年齢	-.011
性別(1=男性/2=女性)	.046
世帯年収	.080 ***
職業(0=無職/1=有職)	-.046 *
教育年数	.059 *
パーソナリティ (NEO-FFI)	
神経症傾向	-.322 ***
調和性	.053 *
誠実性	.103 ***
開放性	.056 *
外向性	.167 ***
生活関連リテラシー	
健康維持行動	.149 ***
生活情報リテラシー	.090 ***
社会に対する積極性	.072 **
R^2	.419
adj R^2	.412
F	67.989 ***

*: $p < .05$; **: $p < .01$; ***: $p < .001$

本研究期間中に、幅広い年齢層にわたる我が国の親子の発達と健康に関する希少な長期縦断データベースを構築することができた。今後の解析を通じて、ライフスパンでの家族の発達と精神的健康に関する予防的な理論を提案していきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計39件)

Naomi Yoshitake, Yi Sun, Masumi Sugawara, Satoko Matsumoto, Atsushi Sakai, Junko Takaoka, Noriko Goto, QOL and sociodemographic factors among first-time parents in Japan: a multilevel analysis, *Quality of Life Research*, 査読有, 25(12), 2016, pp.3147-3155, DOI:10.1007/s11136-016-1352-0

菅原 ますみ, 母親の精神保健と子どもの精神保健に関する長期追跡、*精神科治療学*, 査読無, 31(7), 2016, pp.893-900, <http://www.seiwa-pb.co.jp/search/bo01/bo0102/bn/31/07u.html>

齊藤 彩、松本 聡子、菅原 ますみ、児童期後期の不注意および多動性・衝動性と抑うつとの関連——養育要因と自尊心に着目して、*パーソナリティ研究*, 査読有, 25(1), 2016, pp.74-85, <https://www.jstage.jst.go.jp/article/personali>

[ty/25/1/25_74/_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/personality/25/1/25_74/_article/-char/ja/)

菅原 ますみ, *クオリティ・オブ・ライフと子ども期の発達*, *日本小児看護学会誌*, 査読有, 24(3), 2015, pp.56-63, <http://jschn.umin.ac.jp/files/vol24no54mokuji.pdf>

Naomi Yoshitake, Yi Sun, Masumi Sugawara, Satoko Matsumoto, Atsushi Sakai, Junko Takaoka, Noriko Goto, The psychometric properties of the WHOQOL-BREF in Japanese couples, *Health Psychology Open*, 査読有, 2(2), 2015, pp.1-9, DOI:10.1177/2055102915598089

菅原 ますみ, 生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的健康、*科研費NEWS* (日本学術振興会), 査読無, 2, 2015, pp.6, https://www.jsps.go.jp/seika/2015/index_vol2.html

〔学会発表〕(計63件)

菅原 ますみ, 酒井 厚, 眞榮城 和美, 田中 麻未, 天羽 幸子, 詫摩 武俊, ふたごの個性の発達 - 長期追跡研究の結果から -, *日本双生児研究学会*, 2017.1.28, *十文字学園女子大学* (埼玉県・新座市)

Naomi Yoshitake, Masumi Sugawara, Verifying the theoretical model of quality of life with Japanese married couples, *International congress of psychology (ICP)*, 2016.7.28, Yokohama (Japan).

Atsushi Sakai, Hiroto Murohashi, Masumi Sugawara, Developmental trajectories and predictors of aggression from childhood to adolescence in a Japanese sample, *International congress of psychology (ICP)*, 2016.7.26, Yokohama (Japan).

Mami Tanaka, Masumi Sugawara, The effect of stability and change of genetic and environmental influences on internalizing and externalizing problems among Japanese twins aged 2 to 7 years, *Behavior Genetics Association (BGA)*, 2016.6.21, Brisbane (Australia)

吉武 直美, 菅原 ますみ, 生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的健康 (10) Social Relations Model を用いた成人期の子と親の関係性認知の機能の検討、*日本心理学会*, 2015.9.23, *名古屋国際会議場* (愛知県・名古屋市)

菅原 ますみ、基調講演、パーソナリティの加齢変動 - 子育て世帯の長期追跡研究から -、日本パーソナリティ心理学会、2015.8.21、北海道教育大学(北海道・札幌市)

菅原 ますみ、特別講演、クオリティ・オブ・ライフと子ども期の発達 - 胎児期から青年期まで -、日本小児看護学会、2015.7.25、東京ベイ幕張ホール(千葉県・千葉市)

Akiko Kawashima, Satoko Matsumoto, Masumi Sugawara, Maintaining quality of life and mental health through life span development: the effect of childcare quality in Japan, European Congress of Psychology, 2015.7.10, Milan (Italy).

Satoko Matsumoto, Masumi Sugawara, Parental condition and household chaos among Japanese families with young children, European Congress of Psychology, 2015.7.10, Milan (Italy).

菅原 ますみ、松本 聡子、生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的健康(1) - 家庭の社会経済的状况と子どもの発達との関連 -、日本教育心理学会、2014.11.8、神戸国際会議場(兵庫県・神戸市)

菅原 ますみ、田中 麻未、酒井 厚、真栄城 和美、齋藤 彩、生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的健康(4) - 就学前期におけるパーソナリティの加齢変化: 遺伝と環境の影響性の検討 -、日本パーソナリティ心理学会、2014.10.4、山梨大学(山梨県・甲府市)【優秀大会発表賞 受賞】

菅原 ますみ、松本 聡子、孫 怡、吉武 尚美、酒井 厚、後藤 憲子、高岡 純子、子育て期の夫婦のQOL - 生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的(7) -、日本子ども学会、2014.9.27、白百合女子大学(東京都・調布市)【優秀発表賞 受賞】

〔図書〕(計34件)

菅原 ますみ、公益財団法人日本学術協力財団、メディア環境と子どもの発達(『学術会議叢書 23 子どもの健康を育むために - 医療と教育のギャップを克服する』) 2017、pp.29-47.

Masumi Sugawara, Satoko Matsumoto, Atsushi Sakai, HITUZI SHOBO, Developmental Psychology in Japan: Developmental Follow-up Studies

(Frontiers in Developmental Psychology Research: Japanese Perspectives), 2016, pp.97-109.

菅原 ますみ(監訳)、朝倉書店、縦断データの分析 イベント生起のモデリング、2014、638、(Singer, J. D., & Willett, J. B. 2003).

菅原 ますみ、平凡社、「発達精神病理学」「フォローアップ研究」(『最新心理学事典』)、2013、pp.622-623、pp.667-668.

菅原 ますみ(監訳)、朝倉書店、縦断データの分析 I - 変化についてのマルチレベルモデリング -、2012、352、(Singer, J. D., & Willett, J. B. 2003).

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅原 ますみ (SUGAWARA, Masumi)
お茶の水女子大学・基幹研究院・教授
研究者番号: 20211302

(2) 研究分担者

松本 聡子 (MATSUMOTO, Satoko)
お茶の水女子大学・人間発達教育科学研究
所・特任アソシエイトフェロー
研究者番号: 30401590

川島 亜紀子 (KAWASHIMA, Akiko)
お茶の水女子大学・プロジェクト教育研究
院・特任講師
研究者番号: 20708333

酒井 厚 (SAKAI, Atsushi)
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号: 70345693

田中 麻未 (TANAKA, Mami)
千葉大学・社会精神保健教育研究セン
ター・特任助教
研究者番号: 90600198

山形 伸二 (YAMAGATA, Shinji)
九州大学・基幹教育院・准教授
研究者番号: 60625193

松浦 素子 (MATSUURA, Motoko)
お茶の水女子大学・人間発達教育科学研究

所・研究協力員

研究者番号：80571489

尾崎 幸謙 (OZAKI, Koken)

筑波大学・ビジネスサイエンス系・准教授

研究者番号：50574612

眞榮城 和美 (MAESHIRO, Kazumi)

白百合女子大学・人間総合学部・准教授

研究者番号：70365823

室橋 弘人 (MUROHASHI, Hiroto)

お茶の水女子大学・人間発達教育科学研究

所・研究協力員

研究者番号：20409585

(3) 連携研究者

吉武 尚美 (YOSHITAKE, Naomi)

順天堂大学・スポーツ健康科学部・特任准

教授

研究者番号：40739231